

遺跡から見た源平合戦の時代の野々市

野々市市内には、平安時代後半から鎌倉時代にかけての遺跡が各地で見ることが出来ます。

中林地内にある末松遺跡では、平安時代後半の土師器の^{はじき} ^{わん} 塚が複数見つかりました。塚は、^{はいき} 廃棄したものではなく、意図的に置いたとされ、^{さいし} 祭祀に使用したと考えられます。

^{おうぎ} ^{おか} 扇が丘ハワイゴク遺跡では、鎌倉時代の^{きょかん} 居館の跡を発見しています。館は、大型の^{おもや} 主屋を中心に、^{なや} 納屋などの付属施設を^{たかはし} 設け、隣接する高橋川を天然の^{ようがい} 要害としています。この館は、この地で勢力をもった武士の生活の拠点の場と考えられます。

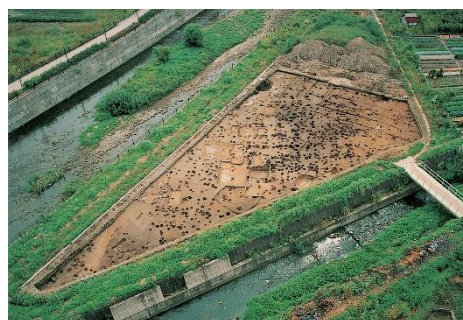
林氏に直接関わる資料はまだ見つかりませんが、この時代、各地に人々の営みを確認できることは、野々市が開発などで発展してきていることを物語っています。



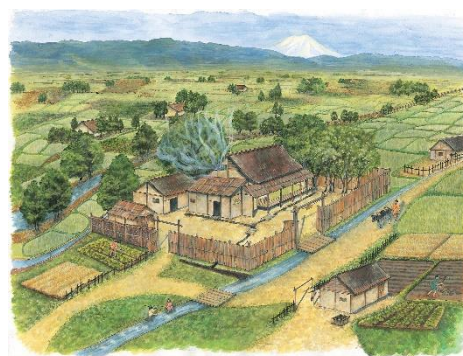
末松遺跡



出土した土師器塚(末松遺跡)



扇が丘ハワイゴク遺跡



扇が丘ハワイゴク遺跡復元図